



文部科学省 IB教育推進コンソーシアム

STUDENT TESTIMONIAL



野田 龍成さん (ぐんま国際アカデミー 2016年度卒)

2016年ぐんま国際高等学校を卒業し、その後、講義が英語で行われる法政大学グローバル教養学部 (GIS) を修了。現在、三菱UFJインフォメーションテクノロジー株式会社にてシステムエンジニアとして働く。

「IBで学んだ課題解決とコミュニケーションの力が今の仕事に自然に活かしている。恐れず、成長と挑戦を！」

IBは自身への成長と将来に繋がると思った。恐れるより、挑戦をして頑張ってみたいという気持ちが大きかった。

IBを選んだ理由は二つあって、一つ目は世界的に有名な難易度の高いプログラムで学び、自身の成長につなげたいという事でした。二つ目は、自分の将来のためにという事です。将来的にグローバルな環境、英語を使う環境で働きたかったので、自分にぴったりのプログラムだと思いました。高校1年生の時、IBを受講する事を決意したのをきっかけに将来どうしたいか深く考える事が多くなりました。

選択した教科は日本語 HL、英語 B HL、数学 HL、物理 SL、歴史 SL、音楽 SL でした。論文 (EE) は大変でした。1年半かけて、論文を書くのも初めてで一人悩む部分もありましたが、友達や先生が存在があったから、取り組めたのではないかと思います。物理の EE は、学校に遅くまで残って実験していた思い出があります。

スポーツはバスケ部でしたが、部員数は10人もおらず、そのうちの3人はIB生。部活とIBの両立は難しかったです。IBは課題も多く難易度も高いです。毎日のようにレポートの提出があり、授業が終わった後に部活を夜までやり、その後の自分の限られた時間の中でどのように課題やレポートを消化していくか、その事しか考えていないくらい時間との闘いでした。タイムマネジメントは難しいですが重要です。

部活はCASとして、後輩指導もしました。CASはサービス (ボランティア) が含まれて、自分が今までやってこなかったことに挑戦する機会を与えてもらったと思います。ボランティアでは、東日本大震災で被災した地域に行ったり、子どもたちに英語塾で教えたり、学校の外国人の先生に日本語の授業をしたりしました。人に教えるという経験がありませんでしたので、自分から人に教える難しさを実感し、先生方への尊敬の念がわきました。

IBの経験が活かした大学時代。リーダーシップを発揮して課題解決を。

IBの課題解決の授業において、自分一人ではなく周りと一緒に進めるようなチームワークの中で、自然にその力が身につきました。大学でもバスケットボールを続け、サークルの代表として活動して大変でしたが、自ら「サークルには少人数のメンバーしかいなくて活動が困難であると」という課題を発見し、新歓活動で人を増やして活発化させるよう実行しました。今では100人規模のサークルとなり、解決に導くことができました。リーダーとして、その活動の中でやったことは、話すのが上手な人は裏方の作業ではなく表に出て話をしてもらい、数学が得意な人は会計、とそれぞれの強みを見つけて仕事を振ることでした。そして、それを自分の中に留めず、相手に「君はこういう事が得意だね」と本人に伝え、やる気を引き出す工夫をしました。それからは、人とコミュニケーションをとる際には、「聞き上手になろう」と心掛けています。

文化の差異を理解しながら、「聞き上手になる」ことを心がけ、コミュニケーションを円滑に。

大学生の時、韓国やアメリカにも行きましたが、ベトナムのIT企業で1か月インターンシップをする機会もありました。日本と雰囲気の違い、文化的な違いを感じました。お昼休憩に昼寝の時間があったり、部屋にはマッサージチェアがあったり。その当時の自分にはITの知識がなく、実際業務に携わる事はできませんでしたが、自由にやっていいと言われ、「この会社の社員たちは何を不満に思っているのか」に着目して、課題を見つけるために社員全員にアンケートを作成しました。その中でITのチーム間でのコミュニケーションの希薄さという課題について、それを解決するためのイベントなどをしたらどうかという提案を社長や役員の方にプレゼンすることができました。IBを受けていなかったら、自分から動いてこのようにはできなかったと思います。

IBでの経験は今の仕事でもかなり役に立っています。犯罪取引防止やテロ資金供与の対策を行う、巨大な海外のAML（アンチマネーロンダリング）と呼ばれるエリアのシステムに関して、海外の方と日々、会議をしています。最近は対面での会議は減り、90%はオンラインです。システムエンジニアとして働いて、現在3年目です。新人の時からかなり大規模なシステムに携わり苦労はしていますが、いい経験だと思っています。システムエンジニアという職業は高校の時から知っていましたが、今、自分のイメージ通りになれているのかなと思います。

僕たちの仕事では、海外のパッケージのシステムをカスタマイズしていくのですが、その会社とコミュニケーションをとる際にトラブルが起きることもあります。例えば、バグを見つけた時に、「こう修正してください」と伝える時にかなり苦労します。なぜなら、相手の商品に対して、まずバグの内容を説明し、期待する仕様やシステムの要望をし、加えてユーザー側の意見を伝えることをします。その際は英語でのコミュニケーションが多いです。文化的な違いや各国の規制があり、それに従って仕組みを考えてシステムを開発しないといけませんし、会議の場では違う国の方が多く、時間に関する観念も違います。



日本人は時間には厳しいですが、それをそれほど重要視しない文化もあります。IBの授業の中で学んでいたのも、文化による慣習の違いにも寛容になれ、それが仕事に活かしています。

コロナ流行後は在宅勤務が主流になったこともあり、コミュニケーションの形態が変わっています。顔が見えないことで意思疎通が難しい部分もあり、その中でどれだけ相手の事を聞けるかが重要で、相手の話をよく聞いて仕事を進めるようにしています。もちろん自分の事を話すのも大事ですが、それよりも相手の話を聞く方を重視しています。上手に聞いて、相手に気持ちよくコミュニケーションを取ってもらうという事が大事ですね。

10年後は、今の会社にいないかもしれませんが、海外との関りは続けていきたいです。自分と違う考え方に触れるというのが面白いし、異文化や新しい知識を得て挑戦できるので、今以上に海外の方と関わって仕事ができればいいなと思っています。

IB生へのメッセージ

IBは大学受験のための勉強と思われる方が多いと思いますが、就職活動の場では、バカロレアに興味を持っている企業もたくさんあるというのを伝えたいです。IBで学んできたこと、特に知識というより考え方は今でも仕事で生きています。引き続き、一人の社会人、大人としていろいろな事に挑戦していきたいです。

後輩の方々にも、僕と同じように思い、考えていただきたいと思っているので、ぜひ挑戦してほしいです。IBはかなり難易度の高いプログラムと言われてますので、もし受けると決断された場合でも追い込みすぎず、自分の限界を知って、それを超えないように。オンオフの切り替えをはっきりさせて息抜きなども大事にしてほしいですね。

勉強とスポーツの両立にもし迷っているのであれば、一つだけとあきらめず、自分でしっかりと一日のスケジュールを立てて、タイムマネジメントをしっかりとすれば両方できるので心配する必要はないと思います。ぜひいろんな事に挑戦してください！